

はるえ支部社協だより

2014.5月号

発行元：はるえ支部社協委員会
発行：坂井市社会福祉協議会

はるえ支部社協委員会(任期2年間 平成24年4月～平成26年3月)では、「はるえ支部住民福祉活動計画」(平成24～28年度)の推進に取り組みました。2年間の活動を中間報告としてまとめました。



2年間で取り組んだこと

① はるえ支部住民福祉活動計画の推進

地域の中での活動が見えない、地域の住民同士、活動者同士が知り合えていない

⇒1期目は計画の柱①「知り合える場づくり」を積極的に推進することとしました。まち協や公民館、地域の団体等の“知り合える”ための活動は多く、情報交換を中心に行いました。

② 支部社協委員会の役割、位置づけの認識

支部社協としての具体的な取り組み(支部単位の交流会やイベント等)がないため、支部社協の役割がわかりにくい。

⇒支部住民福祉計画の推進のため、各種団体代表としての委嘱であることを委員が意識し、協議内容の持ち帰り、団体からの課題や意見の吸い上げを行う役目を確認し合いました。

⇒基礎組織づくりの支援を行うため、各地区ごとに状況が異なることから、委員が地区に分かれた「地区委員会」を設けて、基礎組織づくりの進め方を協議していくこととしました。

見えてきた課題

計画の柱1「知り合える場づくり」

まち協、福祉団体や当事者団体、公民館等のそれぞれの取り組みがあり、課題や目的を意識して進めていったことで、イベント開催が目的でなく、身近な地域で顔の見える住民同士の関係づくりを目指すことが目的であることを確認できました。次のステップとしては、協力、連携できる地域の活動団体同士の関係づくりを目指すことを共有しました。

計画の柱2「住民活動への意識づくり」

福祉の人づくりとして、社協や地域で行われる各種講座等学びの場から、地域活動の人材発掘、育成を考えていましたが、全ての取り組み把握や具体的な働きかけには至りませんでした。

計画の柱3「人と人とのつながりづくり」

住民による見守りや支え合いの取り組みはまだ浸透していません。

計画推進のステップとして、まずは地域の現状を地域に住む人に知ってもらうことが必要です。



今後取り組みたいこと

◇ 「知り合える場づくり」

継続して実施し、さらに目的意識を広げていく。住民、活動者の声を聴きながら、支部単位の活動報告会や連絡会なども支部社協として検討する。

◇ 「住民活動への意識づくり」

学びの場としての集まりをきっかけに、基礎組織づくりや、地域活動を考える場づくりにつながるよう、積極的に地域での開催をすすめる。

◇ 「人と人とのつながりづくり」

地域での理解者、協力者を増やすため、地区カルテや支部社協での地域の取り組み共有から、地域住民への福祉の現状の情報発信を行う。